

三重大学キャンパスマスタープラン（サイン等計画）に関する検討について（答申）

1. 施設整備委員会からの諮問の主旨と答申の対応方針

2019年5月15日開催の施設整備委員会において、施設整備専門委員会（以下「専門委員会」）に対して「キャンパスマスタープラン（サイン等計画）に関する検討」についての諮問があった。このことについて専門委員会で協議した結果、次の対応方針のもとで答申を行うこととした。

本答申では、キャンパス全体の建物の配置及びゾーン構成に対応した誘導、規制サインの全体的編成について論ずることとする。

2. サインの系列区分

2.1 サインの目的区分

サインの機能的目的、役割に応じて次の二種類に区分する。基本的に学外者の利用に合わせて表示する。

- ① 誘導サイン：キャンパス内の建物や部局、施設などの位置を示し、人を誘導することを目的とする。
- ② 規制サイン：安全を図るために交通規制や立ち入り禁止区域などを表示し、一定の行為を規制することを目的とする。

2.2 サインの利用者区分

サインの利用者を、交通手段に応じて次の四種類に区分する。

- ① 歩行者：キャンパス外から徒歩で来学する者（バスやタクシーでキャンパス内に降車する者も含める）。
- ② 自転車：キャンパス外から自転車で来学する者。
- ③ 自動二輪車：キャンパス外からバイク等で来学する者。
- ④ 自動車：キャンパス外から自家用車等で来学する者。病院患者はその他の構内進入車両と区別して取り扱う。

いずれの場合も学外者向けのサインを整理すれば学生、教職員への案内規制は十分であると考える。

2.3 目的区分、利用者区分ごとのサイン計画の方針

目的区分と利用者区分をクロスさせ、各々のカテゴリーの対応方針を【表1】に示す。詳細については各章で説明する。

【表1】サイン系列ごとの対応方針

利用者区分 目的区分	歩行者	自転車	自動二輪車	自動車
誘導サイン	目的地まで出来るだけ短距離でわかりやすく誘導する【3.1】	目的地付近の駐輪場まで出来るだけ短距離でわかりやすく誘導する【3.1】	指定駐輪場まで誘導する【3.2】	駐車場まで誘導する【3.2】
規制サイン	「立入禁止」など安全のために真に必要なものを設置する【3.3】	駐輪（駐車）場所、左側通行など安全に必要なものを設置する。表示等は道交法に従う。サイズについては道路標識、区画線及び道路標示に関する命令（以下「標識令」）に基づいて縮小が可能【3.4】		

3. キャンパス内の各種サインの全体的編成

3. 1 歩行者(自転車を含む)用誘導サインの編成

歩行者(自転車を含む)サインは、次のAからEの順序で編成する。総合案内板、簡易総合案内板の部局名や建物名称は原則として英語表記を併記する【図1、図2】。

A：総合案内板【各建物を網羅的に示す】

歩行者がキャンパスにアプローチする門の付近、バスやタクシーの降車場所や守衛所近辺などに総合案内板(歩行者用)を設け、キャンパス全体の構成を把握させる。総合案内板は、構内のメインルート(みどりのモール、三翠通り)及び直交するサブルート(ループ道路、横断緑道)へ自然に誘導するような位置に設置する必要がある。

B：簡易総合案内板【主要組織名、建物名称のみを示す】

主要なノード(node=結節点・分岐点)に、キャンパス全体を図示した簡易総合案内板を設置する。歩行者に不安を感じさせないため、総合案内板から徒歩で5分以内の場所に設けることが望ましい。

C：道標【交差点に設置する誘導サイン】

サブルートの主要な交差点に設置し、メインルートへ誘導することで目的建物の主出入口に到着できるようにする。特に人の流れが多い歩道では、案内を明確にすることが必要になる。

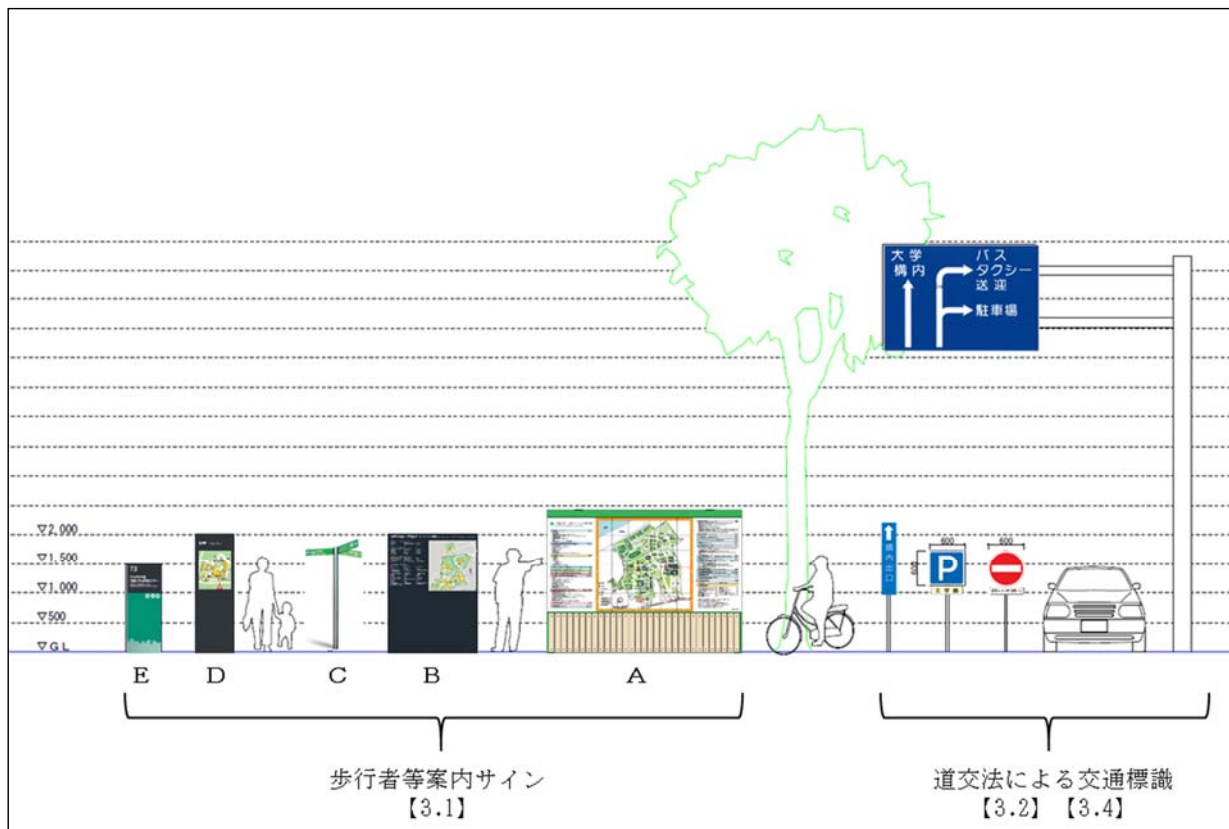
メインルートを基軸とし、誘導表示や建物名称の表示は全て歩行経路に対向して設置する。

D：部局案内板【建物配置、建物名称を示す】

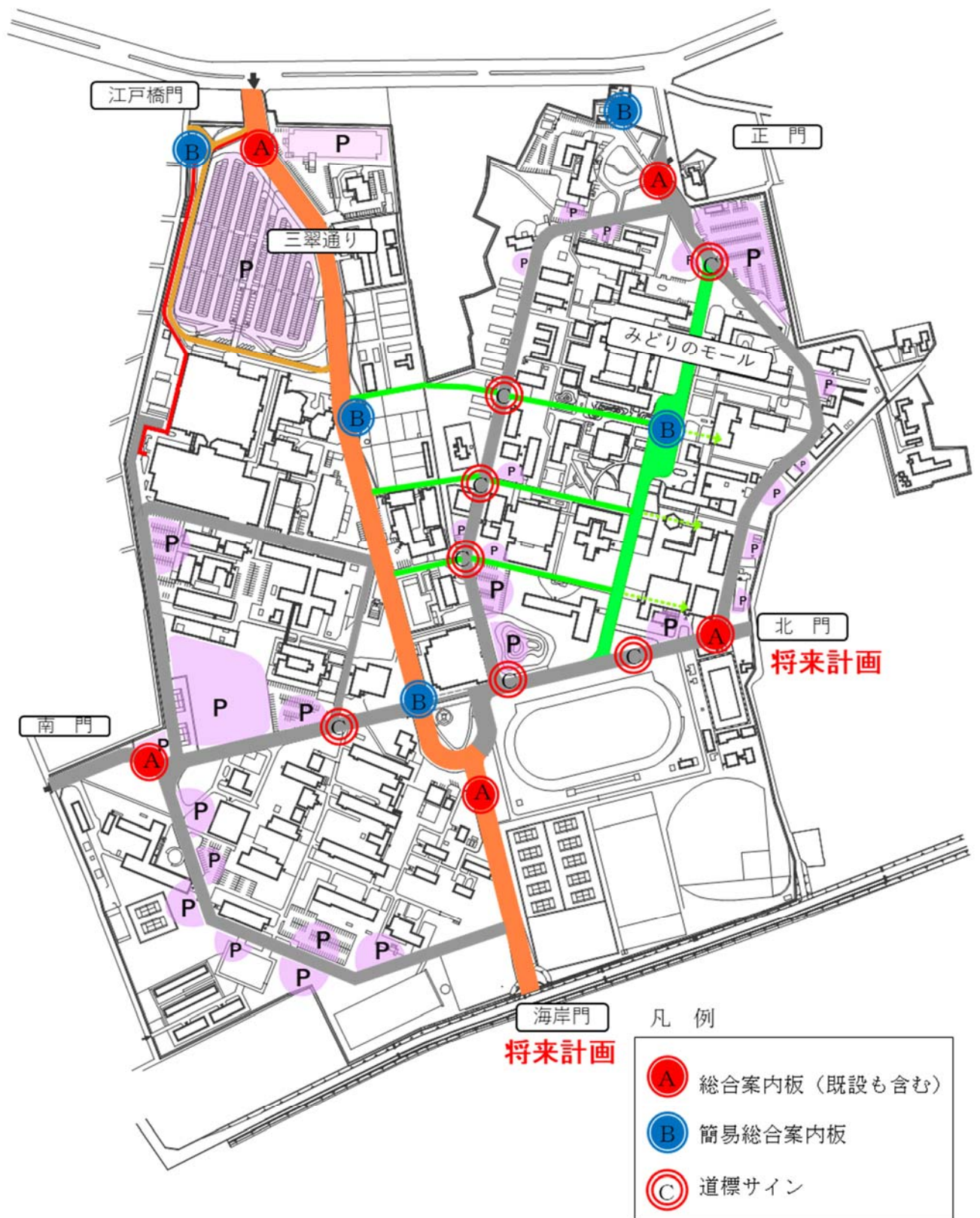
部局内の案内のため、各部局ゾーンの入口付近に設置する。

E：建物表示【建物名称を示す】

主要な建物に表示する。歩行経路に対向して設置する。



【図1】サインの一例

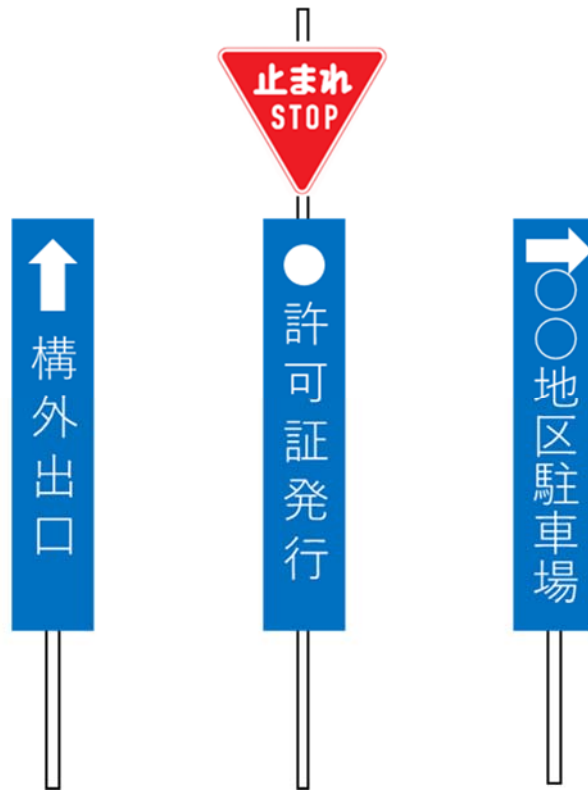


【図2】総合案内板等設置計画

3. 2 自動二輪車、自動車用の誘導サイン

基本的に指定駐輪場、駐車場までの誘導とする。学外者に分かりやすい内容とし、学内者や出入業者向けの表示を過剰に行わない（検収の車両は例外とする）。

横長のサインにするとスペースが必要になるため、縦長青看板（ワンポスト）とする【図3】。



【図3】縦長青看板（ワンポスト）の一例













【図4】中部国際空港の自動車用サイン（参考）

5. アイデンティティカラーの設定

総合案内板などの複雑な図形を見やすくするため、各学部等のアイデンティティカラーを設定する。視認性を考慮し、色の数は10色とした【図9】。

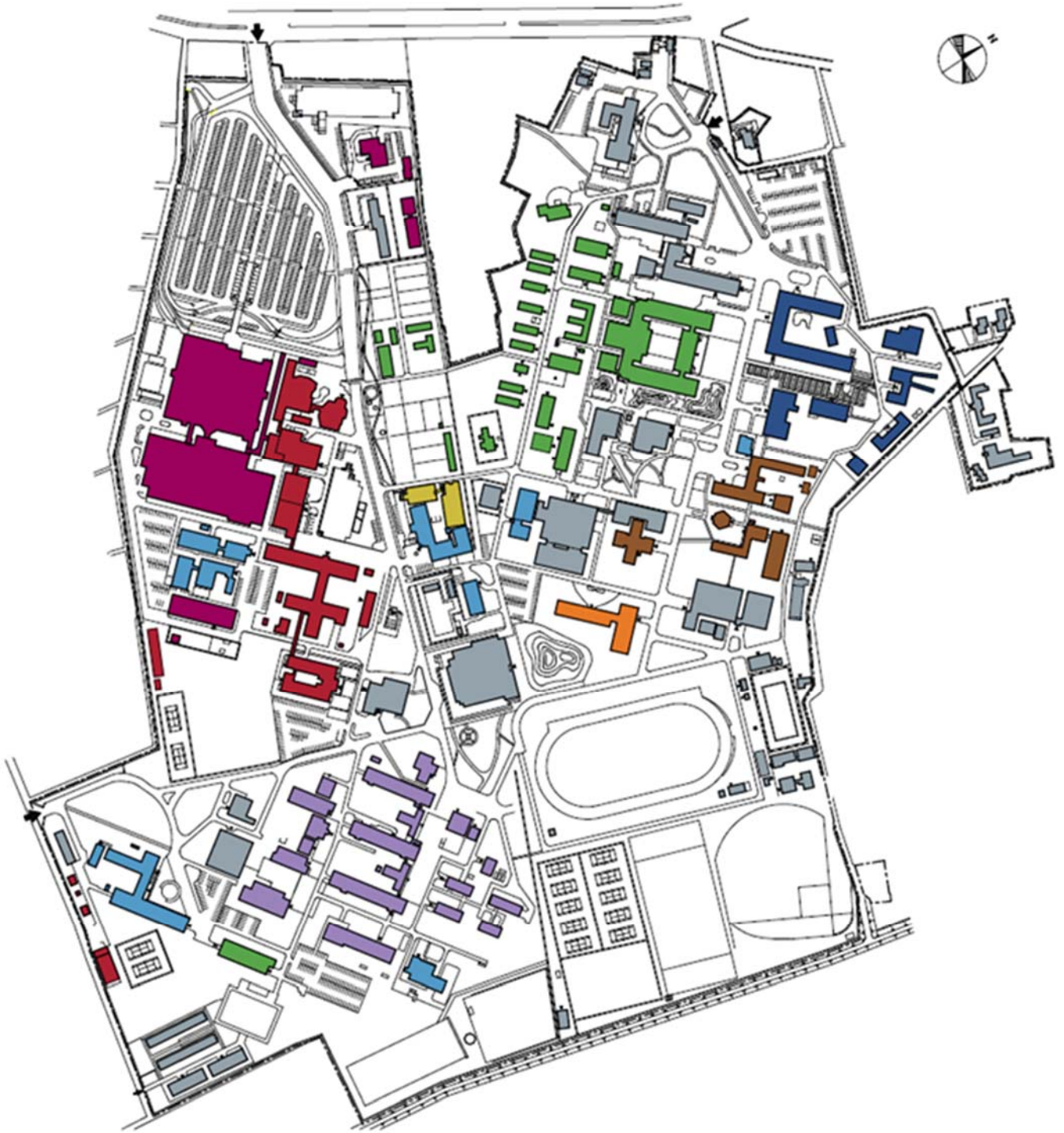
【図10】にあるとおり、類似した色がキャンパス内で隣り合わないよう配分している（病院と医学部は例外で近似色を配した）。

	人文学部 ・ DIC 2522 ・ 4色印刷 C:1、M:57、Y:100、K:0		生物資源学部 ・ DIC 172 ・ 4色印刷 C:69、M:0、Y:93、K:0
	教育学部 ・ DIC 184 ・ 4色印刷 C:100、M:75、Y:20、K:0		教養教育院 ・ DIC F261 ・ 4色印刷 C:32、M:66、Y:100、K:0
	医学部 ・ DIC 2496 ・ 4色印刷 C:6、M:85、Y:98、K:3		地域イノベーション学研究科 ・ DIC 2078 ・ 4色印刷 C:11、M:14、Y:100、K:0
	附属病院 ・ DIC 195 ・ 4色印刷 C:19、M:100、Y:47、K:1		事務局（福利厚生施設含む） ・ DIC 615 ・ 4色印刷 C:50、M:28、Y:28、K:0
	工学部 ・ DIC N906 ・ 4色印刷 C:47、M:61、Y:1、K:0		共用施設（センター等） ・ DIC 100 ・ 4色印刷 C:94、M:10、Y:11、K:0

※DICとは、印刷インキトップシェアの色見本帳「DICカラーガイド」のこと。
印刷やデザインの世界をはじめ、幅広い分野のものづくりの現場で、カラーコミュニケーションツールとして活用されている

※ここでの4色印刷（CMYK）は、上質紙印刷時の数値を表している。
マット紙やアート紙を使用の場合は、DICカラーガイドにて数値の確認が必要。

【図9】 部局等アイデンティティカラー



【図 10】 配置図示したアイデンティティカラー

6. 地図アプリの活用

スマートフォンが広く普及している現状において地図アプリを活用することは、有効な案内手法である。オープンキャンパスやセンター試験などで来学する高校生をはじめ、来学者の多くはあらかじめ地図アプリで目的地を確認している。

現在地図アプリでキャンパス内の建物名称を検索すると、実際と異なる場所が表示され目的地にたどり着けない状況がある。

そのため代表的な地図アプリである「Google Map」や「yahoo map」等で建物名称が正しく表示される必要がある。建物名称の登録は、大学として広報戦略的に一括管理すべきである。例えば Google Map であれば『Google 三重大学アカウント』を作成し『Google マイビジネス』で確認コードを取得することで、管理することが可能になる。

地図情報の管理は来学者の利便性の向上に繋がるものである。キャンパス内のイベント等の周知の際、パンフレットやホームページに地図アプリ情報（QRコードなど）を掲載すれば、来学者の検索が容易になる【図 11】。



①GoogleMapをQRコードに変換



②来学者がスマートフォン等でQRコードを読み取る



③現在地、目的建物への所要時間等がわかる

【図 11】 地図アプリ活用の実例

7. 本答申承認後の取り扱いについて

本答申の2章、3章及び5章の内容は、三重大学キャンパスマスタープランの3. 2. 4節「サイン計画」に差し替え挿入する。

観音寺・高野尾キャンパスは、当面は「上浜キャンパスに準ずる」と記載する。